

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来を力強く生き抜く、思いやりのある人材を育成し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

【チーム翔南として教育活動に取り組む】

- 1 確かな学力を携えて、主体的に自己実現と社会に貢献できる人材を育成する。
- 2 グローバルな視点からの情報収集や問題発見・解決能力、論理的思考力、探求力、チャレンジ精神を育む。
- 3 思いやりのある心豊かな人材を育成する。
- 4 社会構成員としての自覚（ボランティア精神、美化意識、規範意識、多様性、協働性）を育み未来の創り手となる人材を育成する。

2 中期的目標

- 1 地域に根差した高校として、未知の状況に対応できる、確かな学力を育成する。
 - (1) 学びを人生や社会生活に活かせるよう、早期にキャリアを展望させ、生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代にアクティブに学び続けられる資質・能力の育成をめすため、主体的・対話的・深い学びの視点からの授業改善に取り組む。
 - ア 相互授業公開や研究授業、ICT、他校への授業見学、学校教育自己診断、授業アンケートなどを効果的に活用した授業改善に一層取り組む。
※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（H30年度 65.7%、R1年度 65.7%、R2年度 59.2%）を毎年引き上げ、R5年度には70%にする。
 - イ ICTを効果的に取り入れ個別最適な学びと協働的な学び、一斉学習を併存的に展開し、学びの深化を図る。
 - ウ 自らの学習状況やキャリア形成を見通し、それぞれがより高い進路実現をめざす。
※活動記録シートやキャリアパスポートの活用。
※国公立大学、公務員就職者などは少なくとも一人ずつ、難関大学、看護医療系学校（H30年度 35名、R1年度 52名、R2年度 42名）などの合格者は30名以上輩出する。
 - (2) 特色ある教育活動の充実
 - ア 地域交流・国際理解教育など本校の特色をさらに充実させる。
 - イ 「ハートフルほいく専門コース」をさらに充実させる。
 - (3) ウェブサイトや学校通信などの広報活動を充実させ、社会に開かれた学校づくりを更に推進する。
 - ア 授業公開の充実。
 - イ 学校行事への地域住民の参画、連携の拡大。
 - ウ メール発信ツールやホームページの充実。
 - エ 地域イベントへの積極的な参画。
 - オ 学校紹介。
 - (4) インクルーシブ教育システムの更なる推進
校内支援体制の更なる充実とともに、福祉医療関係人材・SC等外部機関との連携をより深め、障がいのある生徒、そうでない生徒、課題のある生徒、そうでない生徒等、すべての生徒の学びと育ちを支援する。
 - ア 専門家との連携。
 - イ 研修及び研修報告の充実。
 - ウ 研修及び共同学習の推進。

2 思いやりの心と健康体力の醸成

- (1) 「自尊感情」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」が理解できる人権教育を推進する。
 - ア 志学、道徳教育、キャリア教育等と連動した総合的な探究の時間やホームルーム活動を充実させる。
 - イ 生命の尊さを問う、また新型コロナウイルス感染症に係る偏見や差別を許さないなどの人権教育を充実させる。
 - ウ 全教育活動を通して、生徒の変化や人間関係のトラブルを見逃さず認知に努め、機を逸することなく関係機関との連携にて校内委員会を開催するなど、組織として未然防止、対応、解決に向かう。
※人権尊重の教育を充実させ、対人関係に起因するトラブルの未然防止に繋げる。
- (2) 健康体力を意識した取組みなどを推進する。
※健康月間、週間の設置

3 心安らげる安全で安心な学校づくり

- (1) 社会構成員としての自覚を高める。
 - ア 遅刻・早退・欠席等を減少させ、基本的な生活習慣を確立する。
※全学年年間遅刻件数(H30年度 7.9回/人・年、R1年度 7.7回/人・年 R2年度 8.01回/人・年)を毎年徐々に減らしR5年度に4.9回/人・年とする。
※全学年年間遅刻・退出件数(H30年度 9.4回/人・年、R1年度 10.9回/人・年 R2年度 11.8回/人・年)を毎年減らしR5年度に7.0回/人・年とする。
 - イ 広域生徒指導の定着を図る。
- (2) 美化・健康・保健・衛生管理・防災への意識を醸成し、清潔で整備された安全で安心な教育環境を維持する。
 - ア 日々の清掃活動の充実を図るとともに、施設・設備の点検、維持管理、更新などに積極的に取り組む。
※有志による清掃活動参加率(H30年度 14.3%、R1年度 13.5% R2年度 40名に限定)を毎年増やし、R5年度には在籍生徒数の20%にする。
※学校施設の機能強化(安全・保健衛生・長寿命化・指導上)の為に総点検を実施し課題を抽出する。
 - イ 火災だけでなく、地震や津波、テロなどを想定した防災教育を積極的に行い防災意識の向上を図る。
※予告なしの防災訓練を実施するなど、訓練に工夫をこらす。
※地域との連携を深め精度の高い防災計画を作成する。
※メール・情報発信ツールを有効に活用し安全確認の迅速化を図る。

<p>ウ 新型コロナウイルス感染症に係る対応を充実させる。</p> <p>(3) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成する。</p> <p>ア ボランティア活動を通じて、社会貢献の意識を高める。</p> <p>※部活動参加率 (H30 年度 39%、R1 年度 33.8% R2 年度 30.0%) は地域との連携を深め R5 年度には 35%とする。</p> <p>※ボランティア活動や体験活動への参加を奨励する。</p> <p>(4) 学校組織力の向上を図る。</p> <p>ア 人権教育推進委員会、教育課程委員会、オンライン学習 PT、SP 会議 (将来構想委員会)、食物アレルギー対応委員会、国際理解教育委員会、進学希望者支援委員会、クラブ活性化チーム、フレッシュパーソンチューター会議などを充実させる。</p> <p>イ 学習指導要領改訂に対応した、内規等の見直し及び観点別学習状況の評価を試行する。</p>
<p>4 人材の育成と管理</p> <p>(1) 教職員の資質向上のため、授業改善を軸に、人権教育、いじめ防止、感染症対策、仲間づくり、インクルーシブ教育、教育相談、食物アレルギーなど、必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。</p> <p>ア ミドルリーダーや外部講師により、授業改善 (ICT を活用した授業実践に向けた研修)、偏見や差別を許さない人権感覚の醸成等の研修、等を実施し、教職員の資質の向上を図る。</p> <p>(2) 働き方改革を推進する。</p> <p>ア 働き方改革推進のため週 1 回の定時退庁日 (金曜日) に加え、月 1 回の定時退庁日 (スーパープレミアムフライデー: 最終週の金曜日) を設置する。同時に、月間超過勤務対象者にはその都度書面の提出を求め、解決を図る。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標【R2 年度値】	自己評価
一 地域に根差した高校として、未知の状況に対応できる、確かな学力の育成	<p>(1) 新学習指導要領を見据えた (主体的・対話的・深い学び) の視点からの授業改善</p> <p>(2) 特色ある教育活動の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の相互見学や研究授業の実施とその後の研究協議や振り返りシートのフィードバック。 アクティブラーニング等の授業方法の研究実践。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善を軸に、あらゆる教育活動における ICT 機器の利用拡大。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートの充実。 高大接続改革 (大学入試制度の変更: 多面的評価の導入) へ対応した、活動記録シートの充実。 進路実現に向けた外部模試の有効活用 定期考査前補習や進学希望者補習の実施と、教育産業との連携及び特講 (進学補習) や夏期自主勉強週間の充実。 大学、短大、専門学校との連携推進。 国公立大学や難関大学合格実績の継続。 それぞれの進路実現のサポート。(一つ上の進路目標を意識) <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバル人材育成のため、SDGs (持続可能な開発目標) の視点も踏まえ、国際理解教育委員会による交流行事の充実と活性化を進める。【国際交流代表団の派遣継続】 地域の日本語教室や NPO 等と協力して、多文化理解の取組みを進める。 国際的共通語として中心的な役割を果たす英語力をバランスよく育成するため、英語で話す機会の確保。 指定校推薦や A0 入試に頼らず、一般入試や公募制推薦入試を活用した進路実現の拡大。 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの結果平均を 3.1 以上を維持する。【3.21】 学校教育自己診断における授業満足度を上昇させる。【59.2%】 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科指導における ICT 機器の活用を増加させる。【第 1 回授業見学—15 名、第 2 回授業見学—18 名】 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートを各学期に 2 部程度作成する。及び活動記録シートを都度提出させる【キャリアパスポート: 2 活動記録シート: 活動毎】 外部模試受験者数を 20 名程度とする。【12 人】 夏期自主勉強会参加生徒数を累計 100 名以上とする。【累計 168 人】 大学・短大・専門学校等の連携を 2~3 校とする。【コロナ禍であるため 1 校】 国公立大学や公務員合格を絶やさない。【0 人】 進路未決定者 (進学浪人を含まず) を 3% 以下に抑える。【0%】 <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流事業 (りん翔 SORA プロジェクト) などを発展的に継続させる。【香港との Web 交流 8 名参加】 地域の多文化理解の取組みへの参加を奨励する。【コロナ禍であるため 0】 英検受験者数を 15 名程度とする。【8 人】 公募制推薦入試等合格者数を 10 名程度とする。【12 人】 	

	<p>(3) ウェブサイトや学校通信などの広報活動を充実させ、社会に開かれた学校づくりを更に推進する。</p> <p>(4) インクルーシブ教育システムの更なる推進</p>	<p>イ ・ハートフルほいく専門コースの充実。</p> <p>(3) ア 授業公開の充実。 イ 学校行事への地域住民の参画、連携の拡大 ウ メール発信ツールやホームページを充実させる。 エ 地域イベントへの積極的な参画。 オ 学校紹介。</p> <p>(4) ア 専門家との連携 イ 研修及び研修報告の充実 ウ 交流及び共同学習の推進</p>	<p>イ ・ハートフルほいく専門コースの選択者について、進路に特化せず、親学習の観点を入れて希望者を増やす。 【27名】</p> <p>(3) ア ・外部への授業公開を昨年並みとする。 【3回】 イ ・体育祭、翔南祭への地域住民の参画を奨励する。 【コロナ禍のため不参加:すみれ会】 ウ ・メール発信ツールへの登録者数を増加させる。 【1251件】 ・HPの更新やメール発信ツールを昨年並みに有効に活用する。【HP更新(157件) メール発信ツール生徒・保護者・教職員(72件) 職員限定21件】 エ 地域連携活動を15回程度とする。 【5回】 オ ・学校説明会申し込み中学生数を増加させる。 【289人】 ・中学校、近隣私塾へのアプローチ回数を例年並みとする。【中学校訪問延80+校長独自11校 私塾は26校に資料送付】</p> <p>(4) ア・イ ・教職員研修及び生徒対象の講演会、担当者による研修報告会を例年並みとする。【教職員研修等4回】 ウ ・支援学校との交流を推進、発展させる。 【コロナ対応のため不参加】</p>	
<p>二 思いやりの心と健康体力の醸成</p>	<p>(1) 「自尊感情」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」を理解できる教育活動を進める。</p> <p>(2) 健康体力を意識した取組などを推進する。</p>	<p>(1) ア ・志学、道徳教育、キャリア教育等と連動した総合的な探究の時間やホームルーム活動を充実させる。 イ ・生命の尊さを問う、また新型コロナウイルス感染症に係る偏見や差別を許さないなどの人権教育を充実させる。 ウ ・全教育活動を通して、生徒の変化や人間関係のトラブルを見逃さず認知に努め、機を逸することなく関係機関との連携にて校内委員会を開催するなど、組織として未然防止、対応、解決に向かう。</p> <p>(2) ア 健康月間の設置 校内に設置された歯磨きスペースを活用し、歯磨き月間などを充実させる。</p>	<p>(1) ア・イ ・学校教育自己診断による生徒の学校満足度(「自分のクラスは楽しい」の肯定意見)を80%以上とする。 【73.3%】 ・人権テーマ(同和問題、障がい理解などで当事者からの話を聞く等)を扱ったホームルームや職員人権研修を昨年並みに実施する。【生徒8回・教職員5回】 ウ ・認知後は速やかに会議を開催し、対応、解決に向かう。 【会議数:5回】</p> <p>(2) ア 歯の健康月間として年間2回程度実施する。 【コロナ禍のため未実施】</p>	
	<p>(1) 社会構成員としての自覚を高める。</p>	<p>(1) ア ・全校一斉指導(服装・頭髪・身だしなみ指導)を充実させ規範意識を高める。 ・式典(始業式・終業式)での校歌斉唱及び正装の徹底を図り儀式的行事感を身に付ける。 イ 広域生徒指導を定着させる。</p>	<p>(1) ア ・停学を伴う特別指導案件数を昨年並みとする。 【22件、30名】 ・全学年総年間遅刻件数を生徒一人当たり昨年並とする。 【8.01回/人・年】 ・式典時、自主的に整列ができるようにする。 イ 広域生徒指導を例年並みに実施する。【警察と</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">三 心安らげる安全で安心な学校づくり</p>	<p>(2)美化・健康・保健・衛生管理・防災への意識を醸成し、清潔で整備された安心・安全な教育環境を実現する。</p> <p>(3)特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成する。</p> <p>(4)「組織の充実と活性化」</p>	<p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務室等との連携による施設、設備のより適正な維持管理に努める。 ・学校内外における美化活動及び清掃活動の充実に努める。 ・生徒保健委員会の取り組みを充実させ生徒の健康意識の増進を図る。 ・食物アレルギー対応委員会を充実させ「学校における食物アレルギー対応ガイドライン」の周知を徹底するなどし、事故の未然防止に努める。 ・喫煙防止、性感染症防止、薬物乱用防止教育の更なる推進。 ・憩いの場として、中庭（噴水）スペースの整備 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務室等との連携により防災計画をより充実させるなど、防災意識の向上を図る。 ・地域の防災訓練に学校施設を貸し出すなど、地域ぐるみによる防災意識の向上を図る。 ・情報発信ツール活用の充実に努め、教育情報の効果的な発信とともに災害時における迅速な安否確認に努める。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に係る対応を充実させる。 <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を通じて、社会貢献の意識を高める。 ・部活動参加率は地域との連携を深め R5 年度には 35%とする。 ・クラブ活性化担当の配置、地域や外部人材との連携による部活動及びボランティア活動の充実に努める。 ・地域中学校との交流を推進する。 ・生徒主体の体育祭、翔南祭、学習発表会など学校行事を充実させる。 <p>(4)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会、オンライン学習 PT、教育課程委員会、SP 会議（将来構想委員会）、食物アレルギー対応委員会、国際理解教育委員会、進学希望者支援委員会、クラブ活性化チーム、フレッシュパーソンチューター会議、定例学年団会議・学年主任連絡会等を更に充実させる。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の改訂に対応した、内規等の見直し及び観点別学習状況の評価を施行する。 	<p>の連携 1 回 保護者との連携 1 回】</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内照明の LED 化の促進 少なくとも 30 ケ所の交換を実施する。 ・消防設備を計画的に更新する。消火ホース、感知器類を中心に約 80 ケ所を更新する。 ・校内草刈りを年間 3 回程度実施する。【4 回】 ・有志生徒による一斉通学路清掃参加者を 80 名程度とする。【40 名限定】 ・生徒保健委員会の研究発表会を 2 回程度実施する。【コロナ禍のため未実施】 ・食物アレルギーに係る委員会を学期に 1 回開催する。【各学期 1 回】 ・喫煙防止教室、性感染症防止講演、薬物乱用防止教室等を引き続き実施し肯定率を維持する。 【肯定率：喫煙防止教室 98%、性感染症防止講演 97%、薬物乱用防止教室 97%】 ・中庭スペースの整備は昨年並みの整備に努める。【6 回】 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜保育所との連携を継続させる。【1 回】 ・ICT 活用に関する教員研修を 2～3 回実施し活用能力の向上を図る。【3 回】 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所や学校医など関係機関との連携を深める。 【学校医による感染防止に関する研修 2 回】 <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率を増加させる。【30%】 ・ボランティア部や生徒会が主体となり、体験活動ボランティア活動について、10 回程度の実績をめざす。【2 人・2 回】 ・部活動について、中学校との連携回数を増加させる。【5 回】 ・学校行事の事後アンケートでの肯定的意見を増やす。【コロナ禍のためアンケート未実施】 <p>(4)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン学習 PT を軸に ICT 活用能力向上のため研修会を昨年並みに実施する。【3 回】 ・学年団会議及び学年主任連絡会を昨年並みに実施する。【学年団会議：26 回主任連絡会：12 回】 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程委員会を定期的に実施する。【12 回】 	
---	---	---	---	--

<p>四 人材の育成と管理</p>	<p>(1)教職員の資質向上のため、授業改善を軸に、人権教育、いじめ防止、感染症対策、仲間づくり、インクルーシブ教育、教育相談、食物アレルギーなど、必要に応じたテーマで講演会や研修会を実施する。</p> <p>(2)働き方改革を推進する。</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダーや外部講師により、授業改善（ICTを活用した授業実践に向けた研修）、偏見や差別を許さない、人権感覚の醸成、等の研修を実施し教職員の資質の向上に向かう。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革推進のため週1回の定時退庁日（金曜日）に加え、月1回の定時退庁日（スーパープレミアムフライデー：最終週の金曜日）を設置する。同時に、月間超過勤務対象者にはその都度書面の提出を求め、解決を図る。 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダーや外部講師により、授業改善等の研修を年間10回程度実施する。 【15回】 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月間超過勤務80時間以上の年間延べ人数延べ回数を減少させる。 【2名、2回】
-----------------------	---	--	--